



昭和49年に結成以来25年以上の伝統を有し、週2回、町第一体育館を主会場に、午後7時から10時までの定期練習会をメイン活動としている東和バドミントンクラブ。福島県内の先駆的バドミントン愛好団体としてスタートし、町外へも積極的に出張しながら「バドミントン教室」を通じた競技普及活動を展開しています。

毎年9月には県北地域17市町村の中学生を対象に、350人以上が出場する「東和町中学生バドミントン大会」を、また、1月には近隣市町村の小学生250人以上が出場する「東和町小学生バドミントン大会」を開催し、大会運営すべてを自主的に行っています。

クラブメンバーからは、インターハイ全国大会や国体少年男子部門への出場選手を輩出し、さらには、クラブの指導成果が結実し、平成12年度には東和中学校男子団体チームが県大会・東北大会で優勝、東北地区代表として全国中学校体育大会へ初出場しました。次代を担う中学生部門を「東和ジュニアバドミントンクラブ」として独立させ、地域スポーツの限らない夢を乗せた新たな風が吹き始めています。



伝統を積み重ねて努力が開花。夢と情熱をいだし全国へはばたく。●東和バドミントンクラブ



県内87市町村のチームが、白河市～福島市間100kmにわたり、たすきリレーを繰り広げる「福島県市町村対抗縦断駅伝競走大会（ふくしま駅伝）」。東和町駅伝チームは、平成元年の第1回大会から人口規模の圧倒的に多い県庁所在地福島市や、全国一の広さを誇るいわき市などの強豪チームと手に汗握るつばぜり合いを演じ続けており、総合成績で準優勝から9位（町の部では3度の優勝）と、常に上位チームの一角をキープしています。

この町駅伝メンバーからは、箱根駅伝競走区間賞ランナーや全国高校駅伝競走準優勝ランナーなど、全国レベルへの飛躍が続いてきました。

東和町で生まれ育った中学生から高校生、そして一般まで、地域で鍛え抜かれた男女ランナーたちのたすきに込める情熱と、平日頃のたゆまぬ努力が地域内外の期待を集め、「走る東和」のキャッチフレーズを生み出しています。



走る東和 町一丸の声援を追い風に、力走、激走、感動ゴール。……●町駅伝チーム